

■コメント

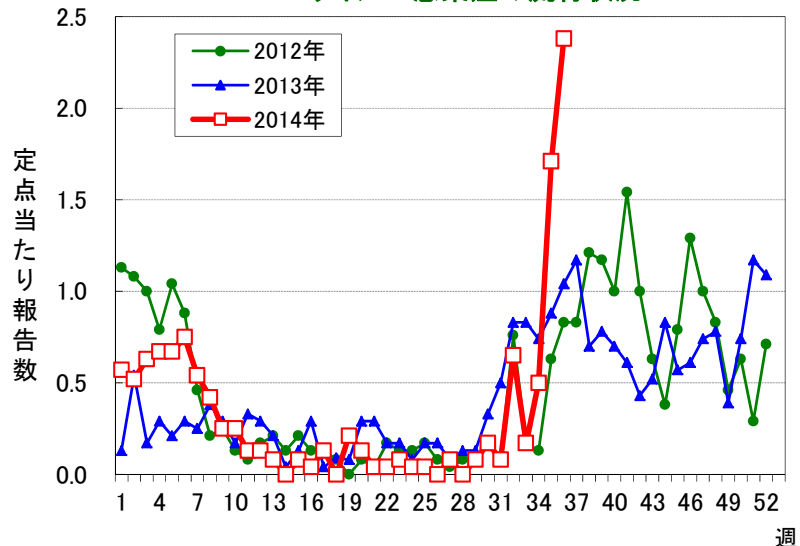
1. RSウイルス感染症

定点当たり報告数は2.38人と、3週続けて増加しています。

RSウイルス感染症は、RSウイルスによって起きる「かぜ」の一つで、2～8日の潜伏期間の後、発熱、鼻汁、せきなどの症状を引き起こします。年齢を問わず生涯にわたり繰り返し感染しますが、成人の場合は軽い症状ですむことが多いのに対して、年齢が低いほど重症化しやすく、肺炎や気管支炎を引き起こすことがあるため、乳幼児は早めに医療機関を受診することをお勧めします。

なお、2014年第36週現在までの患者の年齢別報告数は、1歳以下の乳児の占める割合が78.0%と高くなっています。

RSウイルス感染症の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
小児科	インフルエンザ	1	0.03	0.32		小児科	流行性耳下腺炎	9	0.38	0.62	
	咽頭結膜熱	4	0.17	0.36			RSウイルス感染症	57	2.38	0.41	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	31	1.29	0.55			急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	87	3.63	3.27			流行性角結膜炎	6	0.75	0.88	
	水痘	15	0.63	0.72			細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	25	1.04	1.17			無菌性髄膜炎	-	-	0.09	
	伝染性紅斑	-	-	0.15			マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.29	
	突発性発しん	13	0.54	0.58			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	1	0.04	0.13			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	25	1.04	0.89							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	→	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	120	男性(50歳代)・1人、女性(80歳代)・1人、男性(90歳代)・1人
5	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	2	女性(80歳代)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		インフル エンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス) 感染性胃腸炎
報告数	広島市	第32週	-	7	28	76	16	9	-	9	-	57	20	15	-	18	-	1	-	-
		第33週	1	4	10	53	10	12	-	6	-	27	14	4	-	9	-	-	-	-
		第34週	-	11	7	75	19	8	-	20	-	34	18	12	-	15	-	1	-	-
		第35週	-	9	21	88	13	16	-	11	-	35	8	41	-	14	-	-	-	-
		第36週	1	4	31	87	15	25	-	13	1	25	9	57	-	6	-	1	-	-
定点 当たり	広島市	第32週	-	0.30	1.22	3.30	0.70	0.39	-	0.39	-	2.48	0.87	0.65	-	2.25	-	0.14	0.14	-
		第33週	0.03	0.17	0.42	2.21	0.42	0.50	-	0.25	-	1.13	0.58	0.17	-	1.13	-	-	-	-
		第34週	-	0.46	0.29	3.13	0.79	0.33	-	0.83	-	1.42	0.75	0.50	-	1.88	-	0.14	0.14	-
		第35週	-	0.38	0.88	3.67	0.54	0.67	-	0.46	-	1.46	0.33	1.71	-	1.75	-	-	-	-
	全国	第36週	0.03	0.17	1.29	3.63	0.63	1.04	-	0.54	0.04	1.04	0.38	2.38	-	0.75	-	0.14	-	-
		第34週	0.02	0.46	0.78	3.22	0.56	0.86	0.20	0.63	0.02	2.25	0.33	0.23	0.02	0.89	0.02	0.04	0.22	0.01
		第35週	0.03	0.41	0.83	3.28	0.42	1.03	0.14	0.64	0.02	2.25	0.30	0.39	0.01	0.74	0.01	0.05	0.24	0.01

■新たに判明した病原体検出状況

新たな検査結果はありません。

【参考】デング熱の国内感染症例について

●デング熱に感染した人の居住地

都道府県名	症例数
東京都	42
埼玉県	5
神奈川県	4
千葉県	3
新潟県	3
大阪府	3
山梨県	2
北海道	1
青森県	1
茨城県	1
群馬県	1
愛媛県	1
計	67

厚生労働省発表(2014年9月5日現在)に基づく

デング熱は、デングウイルスに感染しておこる急性の熱性感染症で、発熱、頭痛、筋肉痛や発疹が主な症状です。アジア、アフリカ、中南米等の熱帯・亜熱帯地域で流行しており、日本では、海外で感染し帰国後発症する症例が、年間約200例報告されています。

近年、国内での感染症例はありませんでしたが、2014年8月に、海外渡航歴がなく、東京都渋谷区の代々木公園周辺で蚊に刺されたことによりデング熱に感染した人が確認されました。その後も患者発生の報告が続き、8月以降に報告された国内感染例は、9月5日現在で67例となりました。

デング熱は、蚊に刺されることによって生じるウイルス感染症で、ヒトからヒトへは直接感染しません。デングウイルスを媒介できるのは、日本ではヒトスジシマカです。全ての蚊がデングウイルスを持っているわけではなく、デング熱患者の血液を吸った一部の蚊がウイルスを保有します。

予防方法としては、デング熱患者が発生している地域において、蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要です。屋外で活動する場合は、長袖、長ズボンを着用し、虫よけ等を使用するなど蚊に刺されない工夫を心がけましょう。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2014年第36週(9月1日～9月7日)